

令和7年度 学校経営報告書

八王子市立松が谷中学校

校長 川島 隆

1 教育目標

◇進んで学び、よく考える人 ◇正義を愛し、心豊かな人 ◇体を鍛え、健康な人

2 目指す学校

(1) 目指す学校像

- ①確かな学力を身に付け、自らの力で課題を解決する生徒を育成する学校
- ②教師と生徒、生徒同士の信頼関係を基に、共生的な態度を育む学校
- ③学校運営協議会と連携を図り、地域・保護者に信頼され、共に歩む学校

(2) 目指す生徒像

- ①目標をもち、その実現に向けて、主体的に学ぶことができる生徒（主体性）
- ②言葉を通して、周りの物・事・人との関係をよりよくしていくことができる生徒
(コミュニケーション能力・共生的な態度)
- ③自分で自分自身（心身）を調整する力をもった生徒（自律性）
- ④知識や情報を活かし、自分の考えを整理し、未知の状況に対応できる生徒（情報活用能力）

(3) 目指す教師像（教職員）

- ①生徒一人一人を大切にし、温かく厳しく指導する教師
- ②見通しと目標を定め、工夫と改善を心がける教師
- ③一人で抱え込まず、組織で対応する教師
- ④服務に厳正な教師

(4) 目指す教家庭・地域像

- ①愛情あふれ、子どもが相談できる家庭と地域
- ②子どもの安全と成長を見守る地域
- ③子どもの手本となり、憧れの存在である大人

3 中期的な目標と方策

目標1 生徒が自らの将来に向けて希望をもって卒業する学校づくり（学習意欲と基礎学力の定着）

目標2 適切な判断ができ、他を思いやる心をもつ生徒の育成（人権感覚と規範意識の涵養）

目標3 地域に根ざし、地域から信頼される学校づくり（自己有用感の育成）

4 令和7年度の実践目標と方策

【方策1 生徒が自らの将来に向けて希望をもって卒業する学校づくりのために】

(1) 各教科等

ア 各教科（特別の教科 道徳を含む）

- ①「めあて（課題の設定）」「活動（個別最適、対話的）」「振り返り」を踏まえた課題解決的な授業展開を通し、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善及び国や都、八王子市学力定着度調査の結果を踏まえ、課題を明確にし、主体的に取り組めるようにする。
- ②1人1台の学習用端末を活用し、個別最適な学び及び協働的な学びを通して、言語活動の充実を図るとともに、「はちおうじっ子ミニマム」の定着に向けて基礎的・基本的な学習の定着を図る。
- ③理科教育においては、観察・実験の充実を通し、日常生活における現象と学習内容を関連付けること

により、基礎学力を定着させる。

イ 総合的な学習の時間

- ①人権教育の視点に立ち「課題を見出し、解決するためにできることを考え、行動できる生徒」を育成するために、各教科の学習や体験を通じて学んだ知識の定着及び活用を図る。
- ②協働的な学びを通して郷土(八王子、東京)や日本(鎌倉、京都、奈良、東北)を学ぶことで、課題解決に向けて生徒が情報を活用する探究的な学習活動を行うとともに、地域への誇りと愛情等を深めるようにする。

(2) キャリア教育

- ①「はちおうじっ子キャリア・パスポート」を活用し、生徒が自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、9年間を見通して主体的に進路選択ができる能力を育む。
- ②生徒が社会とつながり、よりよい社会と自らの人生を積極的に作り出していく力を育成するために、キャリア教育指導計画に基づき、自己の生き方について主体的に考えさせられるようにする。

【成果】各教科等においては、授業の冒頭に「本時のねらいと評価の規準」「本時の学習活動の流れ」の提示、授業の最後に「振り返り」を行った。学習用端末の活用においては、各教科等において定着している。「総合的な学習の時間」、「キャリア教育」においては、指導計画に基づき、適切に実施した。特に「キャリア教育」においては、本校の実情に応じて、効果的に「企業訪問」(2年)を行った。「はちおうじっ子キャリア・パスポート」は、行事や学期のまとめに使用した。

「生徒評価」では、「授業の工夫」「小中連携」「安全管理」「自他の大切さ」「いじめ防止」「落ち着いた学級づくり」「キャリア教育」「学習環境の整備」「評価方法の説明」等で肯定的な意見(あてはまる、ややあてはまる)が、95%を超えている。「保護者評価」では、「授業の工夫」「キャリア教育」「自他の大切さ」「小中連携」において、肯定的な意見が90%に達している。これらの点は、市学力定着度調査の結果に表れており、数学においては、1・2年生とも、市平均を4ポイント以上上回っている。

【課題】各教科等においては、授業の流れを明示した課題解決的な授業の展開において、一層の徹底を図る。また、一層の学力の向上と評価の仕方の明確化を目指し、「シラバス」の活用を図る。

「総合的な学習の時間」においては「探究的な学習活動」について、一層の内容の充実を目指す。

「キャリア教育」における「はちおうじっ子キャリア・パスポート」については、更に実用的に活用するための見直しを図り、「職場体験」の取組や近隣大学との連携をさらに緊密にする。

【方策2 主体的に学び、適切な判断ができ、他を思いやる心をもつ生徒の育成のために】

(1) 特別の教科 道徳を要とする道徳教育

- ①道徳教育全体計画及び別葉を基に、教師等との対話や生徒同士の協働を通し、多面的・多角的に考え、主体的に判断し、社会の一員としてよりよく生きていこうとする態度を育む。
- ②学校行事との関連を踏まえ、「思いやり、感謝」・「遵法精神、公德心」・「公正、公平、社会正義」等の内容項目について、重点的に指導する。
- ③適切な授業改善を行うために、道徳教育推進教師を中心に、研修等における伝達講習や互いの授業を見合う機会を設定する。
- ④「地域の子どもは地域で育てる」という視点に立ち、道徳授業地区公開講座の実施を通し、保護者や地域と公正、公平、公共の精神、生命の尊さ等の内容項目の価値について語り合うとともに、職場訪問やボランティア活動、地域の行事等への参加を通し、地域との連携を進める。

(2) 人権・生命尊重教育

ア いじめ防止等の取組

- ①「学校いじめ対策委員会」において、生徒や生徒指導についての情報の共有やスクールカウンセラー等の外部機関との連携を図り、いじめの未然防止及び早期発見に努める。
- ②情報モラル学習やふれあい月間アンケートの実施を通して、組織的にいじめ対応のための時間の充実を図る。また「子ども見守りシート」の活用を通し、家庭との連携を推進する。
- ③「八王子市いのちの大切さを共に考える日」（7月）には、生命の尊さを主題とした授業、生徒会を中心とした生徒からの働きかけ、校長講話を行う。

イ 不登校生徒への支援

- ①登校支援コーディネーターを中心に、個票システムを適切に活用し、スクールカウンセラーや保護者と連携を取り合い、生徒の状況の正確な把握に努めるとともに、スクールソーシャルワーカー、子ども家庭支援センター等地域の外部機関との連携を通し、生徒にとってより適切な環境の整備を行う。
- ②学習用端末を活用した授業配信等を行い、生徒のサポートを行うとともに、進路指導を適切に行う。

(3) 特別支援教育

- ①校内委員会において、各担任・家庭や特別支援教育コーディネーターからの情報を共有するとともに、子ども家庭支援センター、スクールソーシャルワーカー等の地域の機関と連携して指導の充実を図る。
- ②生徒、保護者の意向を踏まえ、学習用端末を活用した学習環境の整備や指導方法の工夫及び都立多摩桜の丘学園との副籍交流を行うとともに、特別支援学級（5組）との交流及び共同学習の機会の充実を図る。

【成果】「道徳授業地区公開講座」では、「思いやり、感謝」をテーマに道徳授業を実施し、保護者・地域対象の意見交換会では「道徳授業疑似体験」を行い、共に考える場を設定できた。「人権・生命尊重教育」では、「学校いじめ対策委員会」を、適切に実施した。情報共有を各学年間で密に図り、日頃の見回り分担等を徹底し、いじめの未然防止や早期発見を心がけた。教員の意識や対応する力が向上した。「ふれあいアンケート」を有効に活用できた。「特別支援教育」においては、校内委員会を適切に実施し、生徒理解を深め、指導に生かした。また、本市のスクールソーシャルワーカーや本校のスクールカウンセラー、不登校対応巡回教員を講師として、通常級における特別な支援が必要な生徒や不登校生徒への対応の仕方について、研修会を行った（7月、12月）。学校評価における肯定的な意見は、「自他の大切さ」（生徒95%、保護者89%）「いじめ防止」（生徒92%、保護者78%）「特別支援教育」（保護者のみ83%）、「道徳」（生徒のみ97%）となっている。

【課題】「特別の教科 道徳」について、多面的・多角的に考える授業を目指し、引き続き研修を行う。「いじめ防止の取組」としては、「子ども見守りシート」の活用を周知する。各学期初めには生徒との二者面談を実施し、諸問題の早期発見に役立てる。「特別支援教育」の推進について、家庭との連携を密に行い、生徒にとってより適切な環境の設定を目指す。

【方策3 地域に根ざし、地域から信頼される学校づくりのために】

(1) 特別活動

- ①集団宿泊的行事においては、「高尾の森わくわくビレッジ」での野外アクティビティや室内レクリエーション等に取り組むことを通し、多様性を認め、ともに活動する楽しさを味わうことで、互いに尊重したり、集団生活のルールやマナーを守ろうとしたりする態度を育成する。
- ②生徒会本部が中心となり、「地域清掃」「児童館祭り」への参画等、ボランティア活動の充実を図り、地域社会の一員としての自覚や責任を高め、地域を愛する気持ちを育む。

(2) 小中一貫教育【松が谷中学校グループ（松が谷中、松が谷小、鹿島小）】

- ①「小中一貫教育の日」を中心に、授業・部活動体験、合唱祭りハーサル参観、はちおうじっ子サミットの合同会議等を行うとともに、ICTの活用に関する資質・能力の育成について連携する。
- ②「学力定着プロジェクトチーム」を設置し、八王子市学力定着度調査の結果の分析をもとに、「学び

- 合い・かかわり合い」に重点を置いた授業改善研修（６月、１０月、１月）を小学校と合同で行う。
- ③生活指導、特別支援教育及び人権教育における分科会を定期的を開催し、情報の共有を行う。
- ④鹿島小・松が谷小の保護者と連携するとともに、青少年対策松が谷地区委員会、学校運営協議会（３校合同）、挨拶運動、清掃活動等ボランティア活動を通して、松が谷地区における健全育成を図る。
- （３）部活動

- ①部活動においては、教員と生徒の信頼関係を基にした生徒の主体的な意欲を活かした活動を行う。
- ②令和６年１２月に作成した「部活動改革ロードマップ」を基に改革を推進する。

（４）その他の取組

ア 学力向上の取組

- ①「はちおうじっ子ミニマム」の確実な定着に向けて、学生ボランティアと連携し、放課後学習教室や八王子ベーシック・ドリル等のドリル型学習コンテンツを活用し、基礎学力の定着を図る。
- ②「Milestone(松が谷中家庭学習ガイド)」を活用し、家庭学習の定着を図る。

イ その他

- ①校内研修の課題を「互いに高め合い、思いやりの心のある生徒の育成」とし、授業改善、個別的・普遍的な人権課題等について、計画的に研修を実施し、教員の一層の人権意識の向上を図る。
- ②義務教育９年間を見通したＩＣＴの活用に関して、「八王子市版情報活用能力系統表」を活用し、ＩＣＴ活用技能をもとに情報リテラシーを育成する。また、市学力定着度調査の結果を踏まえ、家庭学習においても日常的に学習用端末を使用させ、生徒一人ひとりの基礎学力の定着を図る。
- ③「松が谷中２０２０レガシー」として、生徒会と青少年対策松が谷地区委員会が連携し、地域清掃活動・あいさつ運動の推進及び松が谷児童館祭り等の活動に協力することを通し、地域の一員としてのボランティアマインドを育む。

【成果】特別活動においては、第１学年において「高尾の森わくわくビレッジ」での体験的な学習活動を年度当初に行い、自他の大切さや集団生活のルールやマナーを学習させた。生徒会本部による「松が谷中人権月間」では、人権標語の選定を行った（１２月）。「小中一貫教育」における「学力向上プロジェクトチーム」においては、課題を国語科における「書くこと」に絞り、事例を持ち寄った。今後、より一層の計画的な取り組みを図る。学校運営協議会においては、単独、合同において、活発な議論を行うことができた。「学力向上の取組」においては、学習ボランティアによる「放課後学習教室」の他、テスト前の「質問教室」、長期休業中における「自習教室」を実施した。生徒会主催の「自習教室」も３学期に企画できた。学校評価における肯定的な意見は、「家庭学習のやり方」（生徒８９％、保護者７６％）となっている。

創立５０周年記念行事の一環として、外務省に勤務する卒業生を招き、「わが母校 松が谷中学校から世界へ」というテーマで講演会を行い、国際問題や人権問題に対する意識を向上させた（６月）。

【課題】

「小中一貫教育」においては、年間３回の研修会の充実に向けて、適切な準備を行う。「Milestone(松が谷中家庭学習ガイド)」においては、生徒へ「振り返り方の指導」について、より丁寧な指導が必要である。また、人権尊重教育推進校の経験を活かし、「人権作文」や「人権標語」、「ＳＮＳ学校ルール」の取組を小学校と連携をして、継続、発展させていく。

【検証方法】

- ①保護者の学校教育活動に対する関心を高め、全保護者の８０パーセント以上から保護者アンケートを回収する。
- ②生徒・保護者のアンケート結果の各項目を参照し、肯定的評価が８０パーセントを越える。